

2014年3月期 第2四半期決算説明会

東証二部 証券コード：6879

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

Imagica Robot Holdings Inc.

2013年11月12日（火）

目次

グループ概要	P. 2
第2四半期累計連結決算概況	P. 5
当期業績見通し	P. 8
事業セグメントの状況	P.10
参考資料	P.19

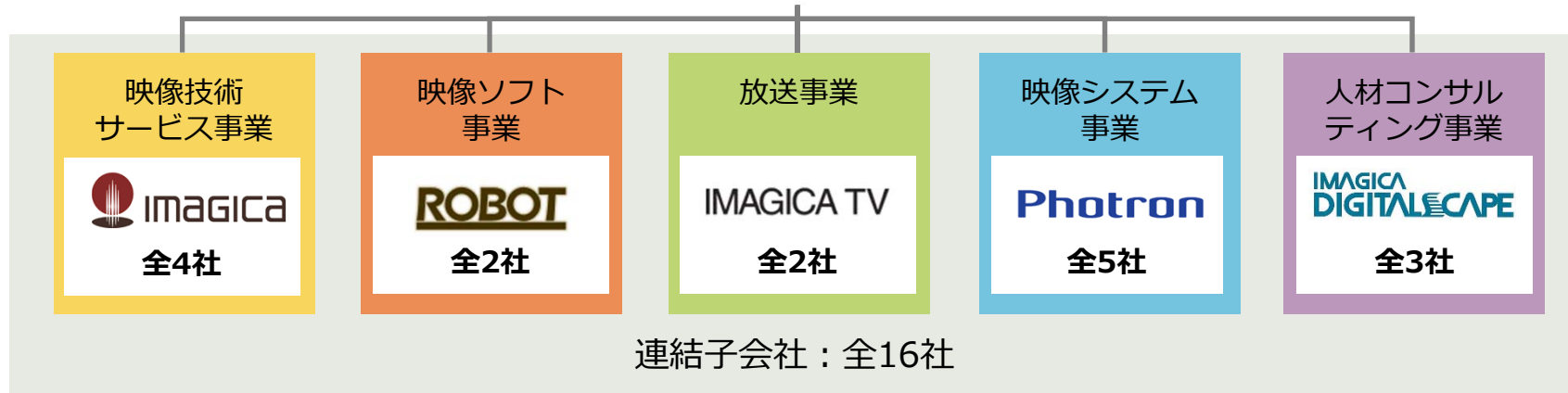
グループ概要

代表取締役社長 長瀬朋彦

当社グループ体制と事業領域

Imagica Robot Holdings Inc.

2013年9月30日現在

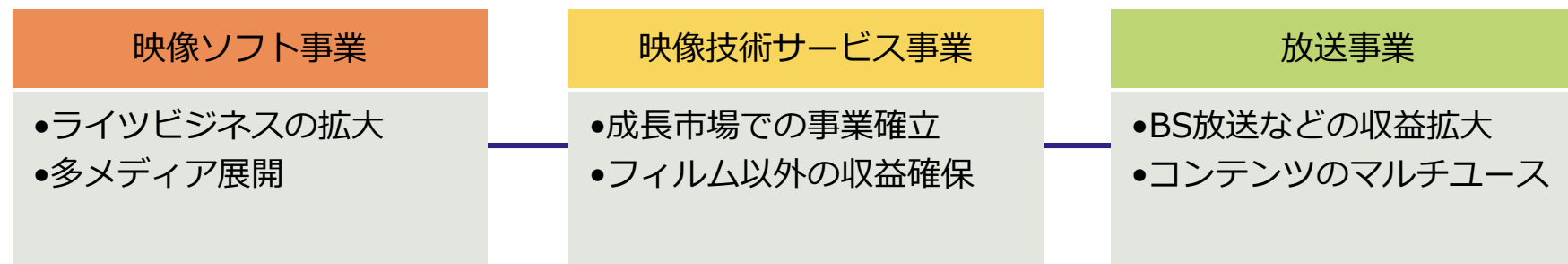


映像制作の入口から出口まで、一貫したバリューチェーンを持つグループ

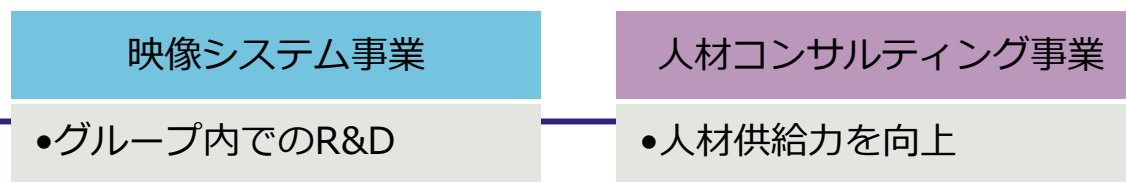


各セグメントのミッションとグループ連携

グループ一体化経営を促進し、
よりバランスの取れた一貫性のあるバリューチェーンに



効率的で堅固なグループ経営体制の構築



グループ総合力

グループシナジーの追求

事業領域の拡大

第 2 四半期累計連結決算概況

第2四半期累計連結損益計算書

(単位：百万円)

区分	2013年3月期 2Q累計実績	2014年3月期			
		2Q累計予想		2Q累計実績	前年同期比
		5/9発表	8/8発表		
売上高	24,948	24,500	24,500	23,542	△1,405 (△5.6%)
売上総利益 (売上総利益率)	6,497 (26.0%)	—	—	6,545 (27.8%)	+47 (+0.7%)
営業利益 (営業利益率)	835 (3.3%)	400 (1.6%)	400 (1.6%)	561 (2.4%)	△273 (△32.8%)
経常利益 (経常利益率)	940 (3.8%)	400 (1.6%)	525 (2.1%)	706 (3.0%)	△234 (△24.9%)
特別損益	△725	—	—	257	+982 (---%)
税金等調整前当期純利益	215	—	—	963	+748 (+348.1%)
少数株主損益調整前 当期純利益	167	—	—	684	+516 (+309.3%)
少数株主利益	25	—	—	11	△14 (△57.1%)
四半期純利益	141	160	539	673	+531 (+376.2%)

主な増減の要因

(売上高)
人材コンサルティング、映像システム、放送の3事業が堅調に推移
映像ソフト、映像技術サービスは減収

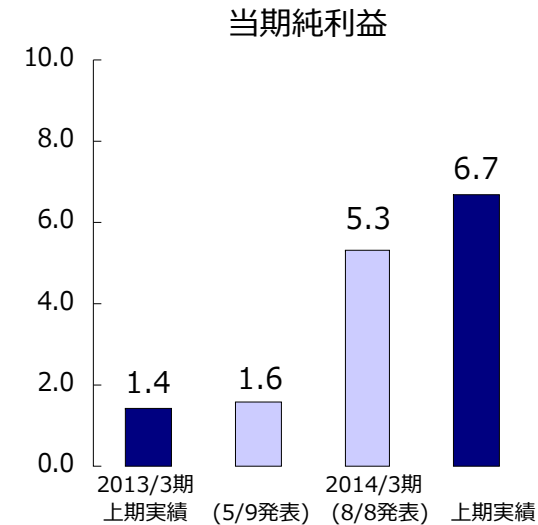
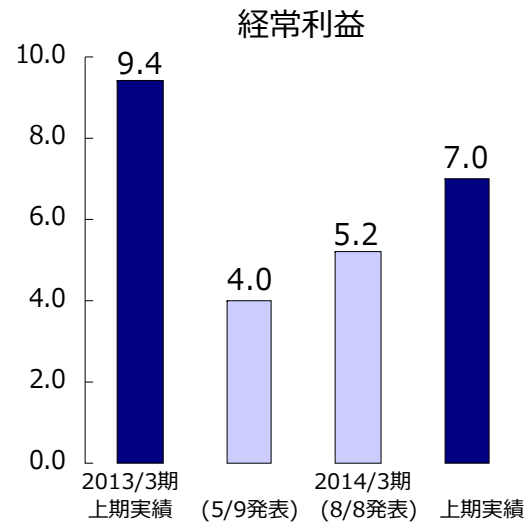
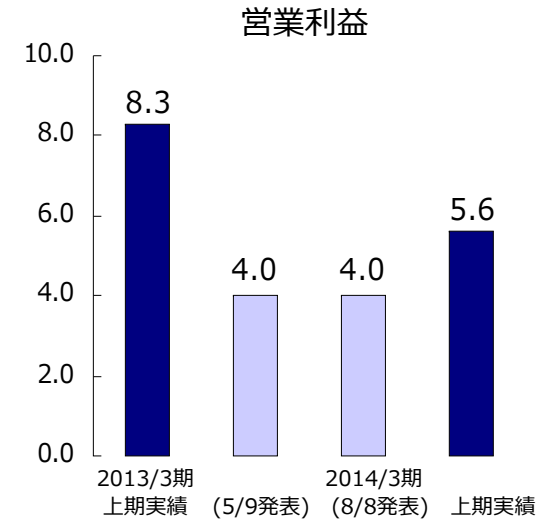
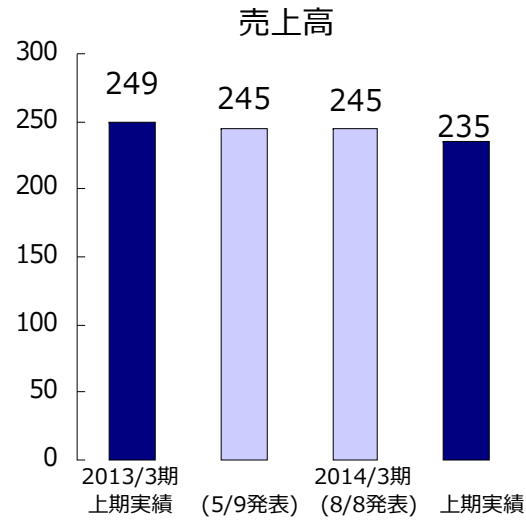
(営業利益)
労務費の一部を販管費へ振替えた他、販促費、減価償却費等が増加し減益

(特別利益)
(株)ジェンコ株式売却益2億29百万円を計上

(前期：特別損失)
フィルム関連事業の固定資産減損・除却等(7億31百万円)

(ご参考) 第2四半期累計連結業績

(単位：億円)



当期業績見通し

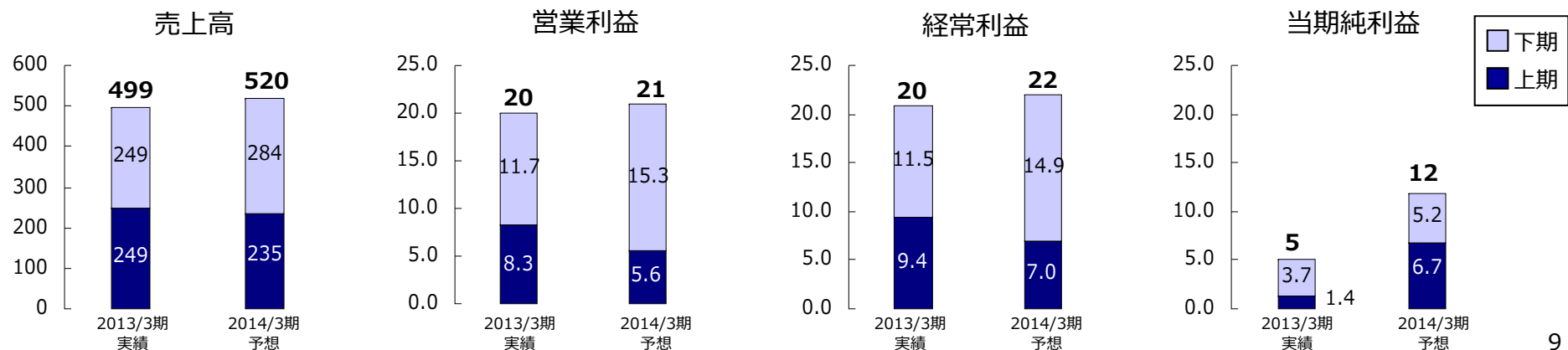
2014年3月期 連結業績見通し

5/9発表の業績予想通りの見通し、対前年比で増収増益

(単位：百万円)

区分	2013年3月期	2014年3月期	
	通期実績	通期予想	前年同期比
売上高	49,919	52,000	+2,080 (+4.2%)
営業利益	2,012	2,100	+87 (+4.4%)
経常利益	2,095	2,200	+104 (+5.0%)
当期純利益	518	1,200	+681 (+131.3%)
1株当たり配当金(円)	15.00	15.00	—

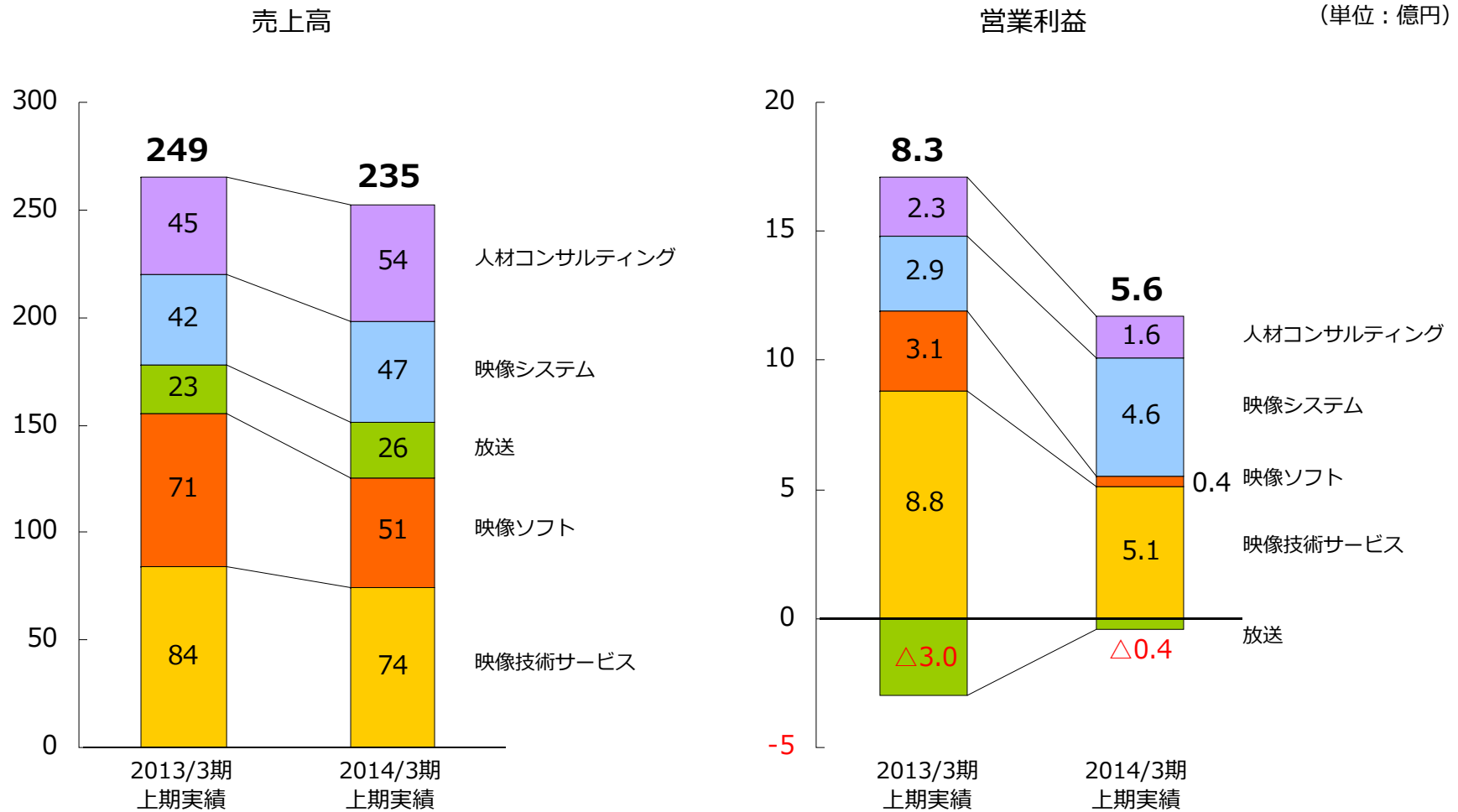
(単位：億円)



事業セグメントの状況

執行役員 経営企画本部長 大久保力

第2四半期累計セグメント別実績



※5事業セグメントの売上高と営業利益を積上表示しており、連結売上高、連結営業利益とは異なります。

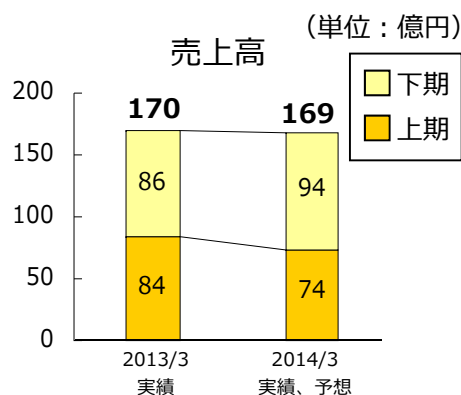
映像技術サービス事業



事業内容

- ・デジタルシネマ関連サービス、映画フィルムの現像、プリント、合成加工
- ・テレビ映像の編集・加工（ポストプロ）
- ・各種メディア向け技術サービス（VFX*・CGI制作*、3D撮影・編集等）
- ・DVD/Blu-ray Discパッケージ化

*VFXとは、現実には見ることのできない画面効果を実現するための技術のこと。
*CGI制作とは、コンピューターで生成・加工された画像の総称

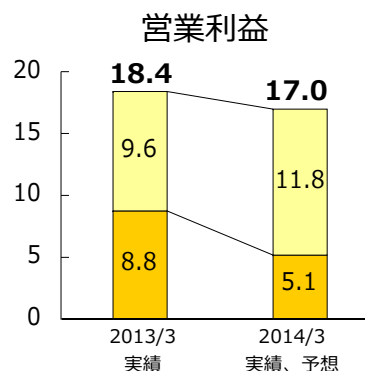


【2014年3月期 上期概況】

売上高 74億円 (前年同期比△12.6%)

営業利益 5億14百万円 (前年同期比△41.7%)

- ・ポストプロダクション作業が前年同期比で減少
- ・映画分野は大型案件を受注、堅調に推移



【2014年3月期 下期計画】

売上高 94億99百万円 (前年同期比+10.3%)

営業利益 11億85百万円 (前年同期比+23.1%)

- ・映画劇場向けネットワーク配信サービスの開発
- ・デジタル化、ファイルベース化対応の新しいスタイルのポストプロサービス開始
- ・12月1日、荻窪にアニメーションスタジオ新設

【2014年3月期 通期予想】

売上高 169億円 (前年比△1.1%)、営業利益 17億円 (前年比△7.9%)

映像ソフト事業

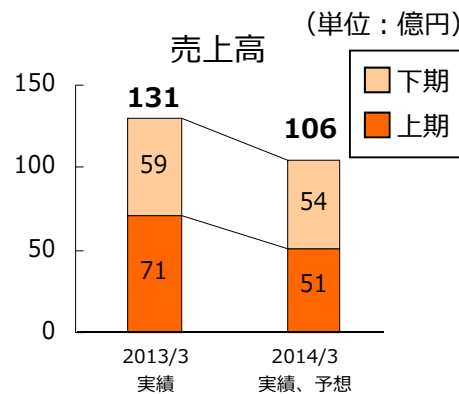
ROBOT

全2社

事業内容

- ・映画、テレビ番組、アニメ、Web映像等の企画制作
- ・テレビCM等の広告制作
- ・ミュージックビデオ等の音楽映像制作
- ・各種映像コンテンツのライセンスビジネス*

*ライセンスビジネスとは、著作物を利用したビジネスのこと

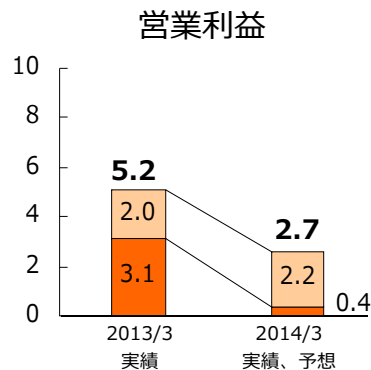


【2014年3月期 上期概況】

売上高 51億13百万円 (前年同期比△28.2%)

営業利益 40百万円 (前年同期比△87.0%)

- ・株式会社ジェンコの全株式譲渡
- ・テレビCM等、広告制作が減少
- ・映画「永遠の0」、「カノジョは嘘を愛しすぎてる」の制作収入が貢献
- ・3Dプロジェクションマッピングは常設案件等を受注、堅調に推移



【2014年3月期 下期計画】

売上高 54億86百万円 (前年同期比△8.4%)

営業利益 2億29百万円 (前年同期比+9.8%)

- ・広告制作分野における営業力強化
- ・制作映画3作品公開予定
「永遠の0」12月21日公開予定、「ジンクス!!!」11月16日公開予定
「カノジョは嘘を愛しすぎてる」12月14日公開予定
- ・3Dプロジェクションマッピングは複数の映像制作を受託

【2014年3月期 通期予想】

売上高 106億円 (前年比△19.2%)、営業利益 2億70百万円 (前年比△48.1%)

放送事業

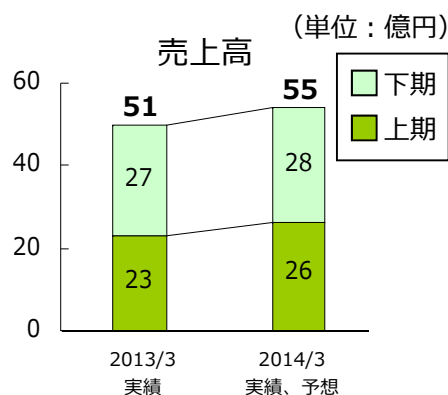
IMAGICA TV

全2社

事業内容

- ・衛星放送（BS/CS）、CATV、インターネット放送、ホテルペイテレビ等の番組の放送、コンテンツ供給
- ・映像コンテンツの企画・制作・編成

*運営チャンネル

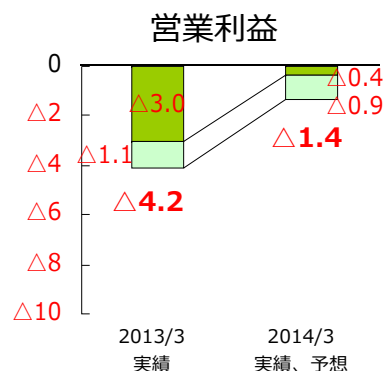


【2014年3月期 上期概況】

売上高 26億86百万円 (前年同期比+12.8%)

営業利益 △48百万円 (前年同期比+2億59百万円)

- ・「イマジカBS」は新規ケーブルテレビでの配信開始、加入者数増加
- ・「歌謡ポップスチャンネル」は加入者数・広告収入が伸長
- ・「食と旅のフーディーズTV」は加入者が減少するも、広告収入でカバー
- ・ホテル事業は大型工事案件受注等により増収



【2014年3月期 下期計画】

売上高 28億13百万円 (前年同期比+2.4%)

営業利益 △91百万円 (前年同期比+23百万円)

- ・CATV局への営業強化と、新規契約者の獲得
- ・「食と旅のフーディーズTV」と「タベラッテ」がブランド統合し、「フーディーズ」として新たにスタート (2013年12月予定)

【2014年3月期 通期予想】

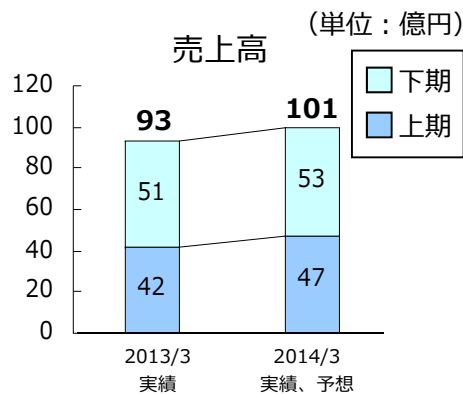
売上高 55億円 (前年比+7.2%)、営業利益 △1億40百万円 (前年比+2億82百万円)

映像システム事業



事業内容

- ・放送等プロ用映像機器の開発・製造・販売
- ・画像計測システム（高速度ビデオカメラ等）の開発・製造・販売
- ・LSIの開発・製造・販売

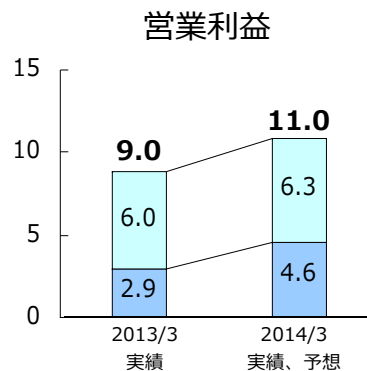


【2014年3月期 上期概況】

売上高 47億61百万円 (前年同期比+12.4%)

営業利益 4億60百万円 (前年同期比+54.7%)

- ・イメージング分野は高速度カメラが国内・海外とも堅調に推移
- ・プロ映像機器分野はテレビ局への大型案件受注等により堅調に推移
- ・CAD分野は最新システムの販売が好調に推移



【2014年3月期 下期計画】

売上高 53億38百万円 (前年同期比+4.3%)

営業利益 6億39百万円 (前年同期比+5.1%)

- ・イメージング分野：光学位相差ムラ計測技術を用いた高速度カメラ（KAMAKIRI）と高速度カメラのハイエンド機種を発売予定
- ・プロ映像機器分野：大型案件獲得に注力
- ・CAD分野：最新システムの販売に注力

【2014年3月期 通期予想】

売上高 101億円 (前年比+8.0%)、営業利益 11億円 (前年比+21.4%)

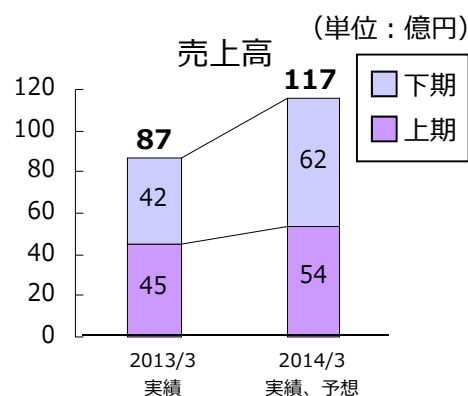
人材コンサルティング事業

IMAGICA
DIGITALSCAPE

全3社

事業内容

- ・人材派遣、人材紹介の人材コンサルティングサービス
- ・WEB、GAME・CG等の制作受託サービス
- ・専任講師による人材育成

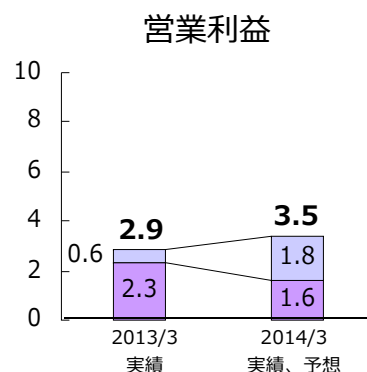


【2014年3月期 上期概況】

売上高 54億57百万円 (前年同期比+21.3%)

営業利益 1億62百万円 (前年同期比△30.5%)

- ・(株)コスモ・スペースと(株)イマジカ角川エディトリアルの2社を連結子会社化
- ・派遣事業はWEBやゲームを中心に稼働者数が増加、映像技術者も稼働者数と作業単価が伸長
- ・コンテンツ制作受託分野は前年同期比で減少



【2014年3月期 下期計画】

売上高 62億42百万円 (前年同期比+46.0%)

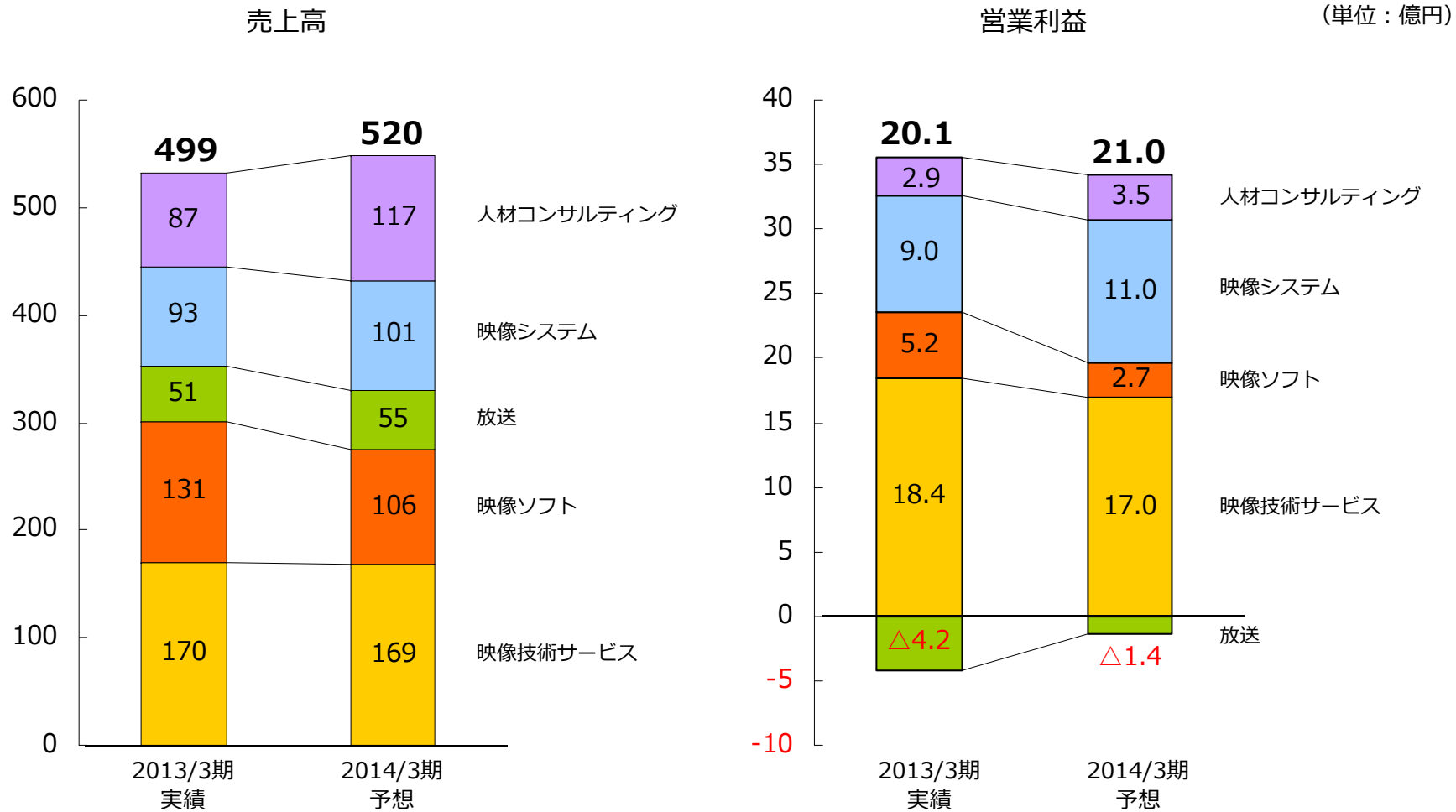
営業利益 1億87百万円 (前年同期比+209.6%)

- ・人材派遣、人材紹介とも好調な滑り出し
- ・WEB、ゲーム職種を中心に案件獲得を強化

【2014年3月期 通期予想】

売上高 117億円 (前年比+33.3%)、営業利益 3億50百万円 (前年比+19.0%)

2014年3月期 セグメント別見通し



※5事業セグメントの売上高と営業利益を積上表示しており、連結売上高、連結営業利益とは異なります。



参考資料

・会社概要	P.20
・イマジカ・ロボットグループの沿革	P.21
・グループ経営理念	P.22
・2014年3月期 上期トピックス	P.23
・用語解説	P.24
・お問い合わせ先	P.25

会社概要

2013年9月30日現在

会社名	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス 東京証券取引所市場第二部 証券コード：6879		
設立	1974年6月10日（1935年2月18日：極東現像所として京都・太秦で創立）		
本店所在地（登記上）	東京都品川区東五反田2-14-1		
本社所在地	東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル11階		
代表者	代表取締役会長 グループCEO 長瀬文男 、 代表取締役社長 社長執行役員 長瀬朋彦		
事業内容	映像技術サービス事業、映像ソフト事業、放送事業、映像システム事業、人材コンサルティング事業等を営むグループ会社の事業の統括		
連結売上高	499億19百万円（2013年3月期実績）		
グループ会社	連結子会社：16社、非連結子会社：4社		
従業員数	2,076名（臨時雇用者数744名を含む）（2013年3月31日現在）		
発行済み株式総数	44,531,567株（うち自己株式数2,059,465株、除く自己株式数42,472,102株）		
主要株主	株式会社クリアート	62.57（%）	
	株式会社三井住友銀行	2.79（%）	（注1）
	株式会社フジ・メディア・ホールディングス	1.90（%）	

（注1）発行済み株式総数に対する比率

イマジカ・ロボットグループの沿革

1935年2月	映画フィルム現像・上映用プリント事業を目的に、株式会社極東現像所として京都・太秦で創業
1942年 1月	商号を株式会社東洋現像所に変更
1986年 1月	商号を株式会社IMAGICAに変更
1992年 7月	映像機器開発・製造・販売の株式会社フォトロンへ資本参加
1996年 5月	CSデジタル放送を目的に、株式会社シネフィルを設立、同年10月より放送事業を開始
1997年 9月	株式会社フォトロンが株式店頭公開
2006年 3月	株式会社ロボットと経営統合
2006年 7月	商号を株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスに変更
2009年 2月	短編アニメ『つみきのいえ』が米国アカデミー賞受賞
2009年 5月	人材コンサルティングの株式会社デジタルスケープに資本参加
2011年 4月	グループ組織再編により株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスがジャスダックに上場
2012年3月	映画専門のBSチャンネル「イマジカBS」開局
2012年12月	東京証券取引所市場第二部に上場

グループ経営理念

MAGIC FACTORY

Image Magic Creative Magic Technology Magic Communication Magic

イマジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、
映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につとめ、
人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。

2014年3月期 上期トピックス

●(株)コスモ・スペースの連結子会社化



●編集業務の人材サービス会社、(株)角川エディトリアル株式取得（孫会社化）

●アニメプロデュース会社、
(株)ジェンコの株式譲渡

●第1回プロダクションEXPO東京
ヘグループ6社が共同出展

4月 5月 6月 7月 8月 9月

●IMAGICAウェストがポジフィルム現像機を新規導入、アーカイブ事業を強化

●ロボットが「やりとりbook store™」のサービス開始

●ピクス制作のジャパンカップ競走記念 ステーションケイバ サイネージ映像が「第8回東京屋外広告コンクール 東京都知事賞 第2部門」受賞

●フォトロンが高速・2次元光学位相差ムラ計測技術を開発、高速位相差マッピングシステム「KAMAKIRI」を「高機能フィルム展（東京ビッグサイト）」に技術出展



●第17回 JPPA AWARDS 2013 一般部門でIMAGICA担当作品「黒い十人の黒木瞳。」が「映像技術グランプリ」を受賞～



●ロボット制作担当「adidas THE HIGHEST GOAL」キャンペーンが第60回 カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバルにて、メディア部門 シルバー獲得



●イマジカデジタルスケープがクラウドソーシング「クリ博オンラインワーク」のサービス開始

●IMAGICA担当の2作品が第17回 JPPA AWARDS 2013 一般部門で入賞～映像技術・ドラマ部門ゴールド賞、映像技術・CM部門審査員特別賞



●「フーディーズTV」が難病に苦しむ子どもたちを支援するMACARON DAY 2013のオフィシャルメディアパートナーに

●ピクス制作映画「劇場版タイムスクープハンター」公開

●フォトロンが映像制作フロー支援プラットフォーム『HARBOR（ハーバー）』のサービス開始

●ピクスが映像制作した、六本木ヒルズ開業10周年記念「TOKYO CITY SYMPHONY」～が第60回カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル サイバー部門（CYBER LIONS）シルバー賞受賞



●ピクス映像制作した4Dプロジェクションマッピング「深海4Dスクエア」が東京ミッドタウンで開催

●ピクス映像制作した横浜ランドマークタワー開業20周年記念「180度体験型プロジェクションマッピング」開催

●IMAGICAが株式会社デジタル・ガーデンと資本・業務提携

●IMAGICAウェスト顧問須佐見成が平成25年度文化庁映画賞を受賞



●映画チャンネルイマジカBSで、エミー賞3部門受賞の「ハウス・オブ・カード野望の階段」を先行放送

用語解説

ポストプロダクション (ポストプロ)	撮影素材を作品の流れに沿って編集を行う、色調を調整する、CGとの合成や音声と合わせるなど、映像の制作工程で撮影終了時点から作品完成までの処理工程のこと。また専門にこれらを扱う部門や会社の総称。
DCP (デジタルシネマパッケージ)	デジタル上映のために映像、音声、字幕等、全ての映画コンテンツ情報を圧縮、暗号化した完成原版のこと。
3D プロジェクションマッピング	建物などの凹凸を3Dデータ化しておき、その表面に立体的な映像をプロジェクターで映写する技術のこと。
高速度ビデオカメラ (ハイスピードカメラ)	高速現象を撮影することを目的としたカメラ。高速度ビデオカメラで撮影した映像を通常の速さで再生すると、スローモーションとして見るができる。ハイスピードカメラともいう。
光学位相差	光学フィルムや板ガラスが光を通す時間差のこと。 光学フィルムや板ガラスに負荷や構造ムラが生じると、その部分に屈折率のムラができ、光を通すと正常部分に対して光が遅れたり速くなる。この正常部分と不具合部分で光が出てくる時間差のことを位相差と呼ぶ。
クラウドソーシング	WEBサイトを通じて、業務を委託するビジネスのこと。時間や場所に関わらず、全国の登録者のうち最適なワーカーに仕事を依頼することができ、時間と費用の削減効果もある。 イマジカデジタルスケープでは「クリ博オンラインワーク」という名称でサービスを提供。

お問い合わせ先

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

経営企画本部 総務部

TEL : 03-6741-5750

FAX : 03-6741-5751

Email : ir@imagicarobot.jp

URL : <http://www.imagicarobot.jp/>

【本資料について】

本資料のいかなる情報も、弊社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。

また本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、いかなる目的であっても、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。